

2022年度 学校自己評価（幼稚園）

学校法人東海大学初等中等教育課

A～Eは教員評価(Aよい Bおおむねよい Cどちらともいえない Dやや不十分 E不十分)

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
園運営（分掌）	学校評価（自己評価・保護者アンケート）をふまえ、学校運営上の課題について、改善する。	学校（園）の運営に関わる保護者満足度を測るアンケート調査（五段階）を実施した結果は総合評価で4.6であった。特に安全管理や教職員の対応、こどもと教職員のかかわり方や関係性については高い評価を得ている。また、第三者委員へのアンケートに関しても危機管理体制や安全管理について高い評価を得ることができた。一方で保護者アンケートにおける園の特色については認知されていないことが判明	B	安全対策や子どもとの関わりについては保護者の満足度が高く、高評価であったため引き続きこの評価を維持していきたい。園の特色を打ち出し、保護者に認知していただくために更なる教育活動の充実をはかる他、東海大学の付属教育機関ならではの教育活動を行いその魅力を保護者をはじめ地域にも発信していきたい。
保育指導（教育課程・幼児指導）	主体的に興味関心のある遊び・及び課題に意欲的に取り組み、生きる力を身につけられる保育を展開する	教職員の教育・保育への取り組みに関する保護者評価が4.8と大変高く算出されたことは大きな励みとなる。しかしながら、割合としては1%とわずかではあるが指導方法や工夫の有無について2や1といった評価があることも事実である。	A	保護者が求めるこどもの育ちや教育・保育の形は一律ではない。大半の保護者の理解を得られたとしても少数意見に真摯に耳を傾ける必要がある。多様な思いにアンテナをはり一人一人の必要に対応できるようコミュニケーションをはかりたい。
クラス指導	教育目標を取り込んで、学級運営と学年運営の充実を図り、特色あるクラス指導をする。	保護者アンケートにおけるクラスの運営・指導に関する質問では大変高く評価されていることがわかった。これは園全体としての教育・保育への取り組みについての評価であるためクラス単位での評価も確認したい。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の獲得を教育目標の一つとしてこどもたちの自主的な育ちを後押しするクラス指導に努めたい。	A	若手教員・中堅の教員そして経験豊かなベテラン教員の三層の教員体制にあって、それぞれが魅力を発揮している。若手の熱心さ、中堅の工夫と探求心、さらなる発見と高みを目指すベテランの味が融合してバランスの取れた指導が行われたことが高い総合評価となったものと思われる。クラスごとにそれぞれの教員がこどもの一人ひとりの特性を把握し個に応じた指導をすることで「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を実現させたい。
生活指導	自立できる子どもをめざして、それぞれの子どもの成長に寄り添って、発達段階を見据えた指導をする。	現代の社会は多様な考え方や多様な価値観が存在する。生活指導面においても向き合い方も一律ではない。見に見えるのみでとらえず、目に見えないことへも目を向けて育ちを確認する必要がある。そんな中にあって「基本的な生活習慣」を身につけることは普遍的な価値としてとらえられるため、その育成に注力した。しかし、アンケート調査においてはこどもの身だしなみや礼	B	基本的な生活習慣の確立を基礎としたうえで園が提供する遊びを中心とした集団での様々な体験から多くを身につけてほしい。そのためにあらゆる機会に礼儀、挨拶言葉遣いなどの指導を行いたい。
進路指導	進路について、情報を提供し、さまざまな相談に応じ、適切な指導をする。	年長児の卒業から小学校1年生への進級進学に関しては、宗像市の教育委員会や教育子ども部との連携のもと、さまざまな取り組みを実践している。子ども自身のスムーズな就学につなげるため、きめの細かい対応を行い「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の実現を目指したい。	B	現在、保幼小（保育所・認定こども園・幼稚園・小学校）連携強化がはかられる中、情報交換を行っている。小学校教育にスムーズにつなぐためにも入学後の小学校教育の事情を知り、必要な育ちを実現するように教育目標を設定し、効果的な教育活動を実践する必要がある。
特別活動	園行事や保育活動等を通して、豊かな情操を培い、異なる学年との交流が図られるよう指導する。	新型コロナウイルス感染症リスクが長く続く中、学級閉鎖や自主自粛が頻発し、行事を中止・短縮することが重なった。感染対策のために行事を単に中止するのではなく、出来る限りの実施と、可能な範囲で出来る代替策を講じた。	A	年長の「お泊り保育」の代替行事とした「夕涼みの会」分散型で実施した「運動会」や「生活発表会」等保護者にも満足いただけ、代替処置が功を奏した。しかし、本来行う特別活動から得られるものを損なうこともあったと考える。これらを補う新たな取り組みを構築したい。
研修	保育改善、研修、自己課題等に積極的に取り組み、先取的保育が構築できるように研鑽する	受講が可能な限りの研修等には積極的に参加した。コロナ禍により制限がほとんどで、リモート研修などの新しい研修にも少しずつ慣れてきた。今後も参加し価値あるものの取捨選択に努め自己研鑽を行う。	A	業務体制・労働条件の範囲の中で受け得る研修には引き続き参加するよう促す。いまだコロナ禍による制限が多く、限られた内容になりがちではあるが、更なる自己研鑽や現場に反映できるような幅広い分野の研修にも参加できる環境をつくりたい。